

◎ 美術館情報

最新の情報は、各施設の公式ホームページなどでご確認ください。

1. 豊田市民芸館【愛知・豊田】(<https://www.mingeikan.toyota.aichi.jp/exhibitions/>)

12月16日(土)～2024年3月10日(日)

特別展：豊田市民芸館開館40周年記念・河井寛次郎記念館50周年記念

「河井寛次郎—寛次郎の魅力は何ですか—」

日本を代表する陶芸家・河井寛次郎(1890～1966)は、柳宗悦、濱田庄司とともに日用雑器の美へ関心を深め、「民藝」の新語を作り、民藝運動を推進しました。本展では当館開館40周年事業の一環として、開館50周年を迎えた京都の河井寛次郎記念館の所蔵品より、陶芸家・河井寛次郎の創作活動の全貌を紹介します。河井の陶業は、東洋陶磁に倣った初期作品、民藝運動を牽引する中での実用を意識した中期作品、独創的な造形美へと変化した後期作品に大別され、いずれも技巧性・独創性において高く評価されています。また、陶業のみにおさまらず、その表現は木彫や書、デザイン分野など多岐にわたります。今回は河井寛次郎の陶業の仕事や、昭和・戦後期に作られた木彫像や木彫面、真鍮のキセル、河井の人間性・精神性を表現した書など、3点の初公開作品もあわせて約200点展覧し、多くの人々を惹きつけてやまない「表現者・河井寛次郎」の魅力にアプローチします。また、関連企画として、美術家の中村裕太(1983～)が、河井の仕事にみられる造形感覚をその暮らしからひも解いていく展示を行います。



2. 岐阜県現代陶芸美術館【岐阜・多治見】(<https://www.cpm-gifu.jp/museum/events/event/event-7832>)

12月16日(土)～2024年3月3日(日)

特別展：フィンランド・グラスアート 輝きと彩りのモダンデザイン

北欧フィンランドの家具やテーブルウェアは、洗練された美しさと考え抜かれた機能性によって国外でも広く愛され、日本でも近年人気が高まり続けています。フィンランド工芸の発展は、1917年にロシアから独立した後に始まり、現代的な優れたデザインが次々と生み出されてきました。その中でガラスのプロダクトも注目すべき分野で、1930年代以降、優秀なデザイナーたちが国際的に活躍するようになりました。芸術作品を志向して作られ、「アートグラス」と呼ばれるタイプも次第に盛んになり、1950年代になると、フィンランドのアートグラスは世界から高く評価されるようになりました。生み出された成果には、自然豊かな北の風土を反映した表現や、ガラス造形の可能性を広げていく様を見ることができます。本展では、1930年代から現在に至るフィンランドのグラスアートを、主要なデザイナー、作家による約140件の作品により紹介します。ガラスによる、フィンランドならではの表現や、多彩な造形をお楽しみください。



3. 戸栗美術館【東京・渋谷】(<http://www.toguri-museum.or.jp/tenrankai/next.php>)

2024年1月7日(日)～3月21日(木)

企画展：花鳥風月—古伊万里の文様—

日本のやきもの史の中で、初の国産磁器として誕生した伊万里焼は、器面に筆で文様を描くことを施文方法の主流としました。江戸時代を通じて佐賀有田を中心とした地域で作られ、需要者の流行を反映しながら、様々な文様をあらわしていきました。その表現は一筆ごと丁寧に描かれているものから、略筆で判別が難しいものまで多岐にわたります。ひとつひとつのモチーフを紐解いていくと、中国文化の受容に加え、国内で脈々と培われてきた日本文化の独自性を垣間見ることができます。本展では古伊万里の文様から花・鳥・風景・月に注目。2つの展示室をそれぞれ「花鳥の間」、「風月の間」として、四季折々の花鳥文、風情溢れる山水文のうつわを紹介します。約80点の趣深い古伊万里をご堪能ください。

